

# あきたを創り、あきたを守る

—— 建設業が守る私たちの暮らし —— VOL.1

建設業は、私たちの生活に欠かせないインフラを造り維持する、非常に重要な役割を担っています。このシリーズでは、業界の仕事や現状について3回にわたって紹介します。第1回目は、建設業の地域貢献をテーマに西宮組(仙北市)の西宮優太代表取締役から取り組みを聞きました。

## INTERVIEW

### 西宮組(仙北市) 西宮優太 代表取締役聞く 建設業の地域貢献



地元に根付いた工事や災害対応について語る西宮社長

西宮組は、仙北市や大仙市を中心に、主に土木工事を請け負っています。令和4年9月から同5年3月にかけて

は、西明寺佐曾田地区の緊急予防治山工事を実施。土砂災害を防ぐことを目的として、山の麓に治山ダム(谷止工)の設置施工をしました。平成29年の豪雨災害の発生時に山間部から土砂が流出したことから、地域住民の強い要望があって実現したものです。この工事は令和5年度の「第44回秋田県優良工

事表彰」を受賞、さらには「第39回民有林治山工事コンクール」において、各都道府県を代表する工事の中から農林水産大臣賞に選ばれました。

賞の受賞は、道路や民家が近い立地で、冬期間の工事であったことや安全性、出来栄を評価されました。会社から見えるほど近い、まさに地元での工事が高く評価されたことを、とても光栄に思います。

## 災害時対応も重要な業務

災害時の対応も重要な業務の一つです。今年8月下旬の大雨で桧木内川が氾濫した際には、同じ仙北市の角館建設工業、小林産業と共同で復旧作業にあたりました。西宮組を含む3社共同体は災害箇所地元企業ということもあり、真っ先に駆けつけて現場を通行止めにし、特に氾濫後の2～3日間は24時間体制で作業を行いました。川が決壊した場所にはすでに養生がされていましたが、1日に250ミリのを超える降水量は、想定をはるかに上回るものでした。経験したことのない災害で二次災害の恐れもある状況下において、人的被害を出さずに作業を終えられたこと

が何よりです。通りかかった人の中には、現場作業員に直接感謝を伝えてくれた人もいて、大変励みになりました。

今後も地域の自然や暮らしに根付いた業務を継続していくためには、業界全体の課題でもある「人材確保」が重要です。

今年12月からは新たな試みとして、ベトナム人の技能実習生を2人受け入れました。どれだけ技術が発達しても、建設業は人が足りなくては成り立ちません。さまざまな手段を講じて、この重要な役割を受け継いでゆく人材を育てていきたいと思っています。



# 建設業の仕事(西宮組) 暮らしの便利と安全を支える業務の一部を紹介します。



## 防災

西明寺佐曾田地区に建設した治山ダムの全景(写真上)と1号谷止工(写真右)。民家のすぐ裏手にコンクリート谷止工を2基設置した(令和5年3月完成)



## 橋梁下部工

国道105号の道路メンテナンス工事として上桧木内地区の橋梁(きょうりょう)下部工を建設した(令和6年7月完成)。令和7年度「第46回秋田県優良工事表彰」を受賞



## 災害対応

今年8月下旬の豪雨で桧木内川が氾濫し、道路が崩壊。緊張感に満ちた復旧作業の様子(写真上)と、完成した迂回(うかい)路(写真下)



## ダム建設

大仙市の「協和ダム」など、県内外の大型ダムの建設工事も手がける



## ボランティア

地域のボランティア活動にも参加。角館の桜まつりでは交通誘導を担当